
長崎、平和公園にて

水守中也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

長崎、平和公園にて

【Nコード】

N2941N

【作者名】

水守中也

【あらすじ】

何かを感じていただければ、幸いです。

一組のカップルが、平和公園に足を踏み入れた。男性は白人系の外国人、女性は日本人だった。二人とも20代だろう。ときおり英語で会話を交わすが、笑顔はなかった。

二人は平和祈念像の前に立った。

女性はカメラを構え、祈念像の写真を撮るが、男性は祈念像に間近まで歩み寄り、カメラに背を向けたまま、じっと像を見つめていた。やがてカメラを収めた女性に促された男性は、軽く手を繋いで、二人して公園を後にした。

「こらー、静かにしなさい。他の方に迷惑でしょ」

真夏の太陽が照る中、生徒たちは無駄に元気だ。日差しは暑いというより痛い。日焼け止めをこれでもかと塗ってきたとはいえ、生徒たちの手前、日傘を差せない取り決めが憎い。

修学旅行で、はしゃぐ生徒たち。事前に原爆について勉強してきたので、少しはしんみりするかと思ったのに、このざまだ。

平和祈念像のポーズをまねしたり、単に両手でピースポーズをしたりして、記念撮影に余念のない。

「大人しくしなさいって！ もおっ。教頭先生もなんとか言ってくださいよ」

隣のベンチで座りながら、ハンカチで汗を拭いている男性教諭に言った。校長は学校に残っているので、彼が引率教員の責任者となっている。

いつも口うるさい教頭だが、今はなぜか穏やかに生徒たちを見つめている。

「いや、私思っんですよ」

「はい？」

「平和を求める像の前で、無邪気にはしゃぎながらピース——平和のサインをする。これ以上、すばらしい光景はないんじゃないか、とね」

「そうですか？ 被爆者に対して不謹慎ではないでしょうか」

「よく言うじゃないですか。推理小説で、探偵が被害者の気持ちを代弁する話。復讐よりも幸せに生きてほしかった、と」

「あれはフィクションです。それに子供たちに、そんな高尚な考えがあるのではなく、ただはしゃいでいるだけだと思います」

「計算していたら有り難みもないでしょう」

「かもしれませんが……」

「今はただ触れるだけでもいいんじゃないですかね。大人になったとき、この体験を少しでも平和について考えるきっかけにしていたければ。それだけでもきつと、この国の——世界のためになると、私は思いますよ」

教頭がにこりと笑った。

「あなたのようにね」

暑さとは別の汗が流れた。

——生徒時代の武勇伝。忘れてくれていなかったのか。

（後書き）

旅先で、冒頭の光景を目撃して、思ったことを話にしてみました。冒頭部と本編につながりはありません。向き合い方は人によって違う例とを考えていただければと思います。分かりにくくて、すみません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2941n/>

長崎、平和公園にて

2010年10月10日23時00分発行